

見守り活動のポイントと留意点を考える

平成 19 年 12 月 5 日（水） 15:00～17:00 18:00～20:00 阿倍野市民学習センター

大阪府警察本部 生活安全総務課 子供安全対策第2係 係長 藤井 嘉憲
同 子どもの安全見まもり隊サポーター 椿山 清見
同 同 松本かよ子

〇はじめに

見守り隊の継続・活性化のために

府内各地で見守り隊が立ち上がって数年、府内の子どもに対する強制わいせつの午後3時台の発生が平成17年度に比べて平成18年度は74%減少した。

今後の課題として、次の2点が挙げられる。

課題1：せつかく立ち上がった見守り隊が、疲弊・消滅の危機

具体的には・・・

- ①毎日の見守り活動の中で一部の人に負担がかかる
- ②結成時のモチベーションが維持できていない
- ③保護者の無関心が活動意義の疑問につながる

これらの解消のために・・・

まず、地域ごとの阻害要因を取り除かねばならない。府警等が地域に入り込んで啓発活動を実施することも有効。なにより、見守り活動を行っている方へあいさつをし、感謝の気持ちを届けることが効果的。

また、府警啓発活動の中で犯罪率減などの効果の話をし、意識の高揚を図ること、例えば学校の教育活動で見守り活動について取り上げてもらうことなどで意義の認識やモチベーションの維持が期待できる。



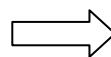
課題2：午後4時～6時の見守り隊が実施されていない時間帯の子どもの安全確保

見守り隊と夜間巡視との間に空白の時間がある。子どもを見守るのは見守り隊だけの役割ではない。地域の大人全員が、日常生活の中で何気なく子どもの安全を気にかけてもらえれば。

- 例えば
- ・ 買い物の「ついで」に行き帰りの道を注意してもらう・・・「ついで」パトロール
 - ・ 犬の散歩をしながら道程を見てもらう・・・ワンワンパトロール

また、現在、地域の学習塾などに子どもの安全推進協議会の立ち上げを働きかけた結果、4月22日に府下150の塾で活動が開始される。

大人が地域ぐるみで子どもを見守る体制をつくる



子どもの安全の確保

大阪府警の防犯教室

課題解決のために、見守り活動にあまり関心のない親たちに意識をもってもらうためにも、地域に出向いて見守り活動の大切さについて話をしたい。地域の各種会合などに10～20分でも時間を作ってもらえれば話をしにいき、防犯意識の高揚を図りたい。

○見守り活動とは

子どもの安全見まもり隊サポーターについて

「子どもの安全見まもり隊サポーター」は、警察官OB17名で組織されている。通常、2名1組で府下を回り、地域の方が子どもの安全を見守る活動をする際、子どもが被害者となる犯罪の発生実態に関する情報提供や、見守り活動に関する具体的な実施方法、防犯教室・防犯訓練の実施等についてのアドバイスを随時行っている。ぜひ、活用・相談してほしい。

※ 大阪府警察本部 生活安全部 生活安全総務課 子供安全対策係

電話番号 (06) 6943-1234 内線 30291 から 4

全国の見守り活動についてのビデオ視聴

- ・ 自主防犯パトロールの立ち上げ方
栃木「皆川地域安全パトロール隊」の実践より
- ・ パトロールのポイント
長崎「白山地区安心安全連絡会」の実践より
- ・ 地元大学生・警察との連携
山形「酒田育成チャレンジチームS I C T」の実践より



見守り活動のポイント

- ・ 見守り活動中だとわかる服装（腕章・帽子・ネームプレート・たすき等）
- ・ 見せる防犯…犯罪抑止に大きな効果
- ・ 不審者・不審車両を見たらすぐに通報する。深追いしない
- ・ なるべく複数（団体）で活動する
- ・ 受傷事故に気をつける
- ・ 防犯ブザーを聞き逃さない

見守り活動は

- ・ いちはやく子どもの顔を覚える
- ・ いつでも、誰でも、どこでもできる
- ・ 不審者は皆の目で見抜く力が大事



細く長く続けていくことが大事

見守りを、長く続ける3つのキーワード

「気軽に 気楽に 安全に」

パトロールのポイント

大人の目 子どもの目 で
人通りの少ない場所、危険な場所を確認しましょう

かくれんぼして、かくれやすい所 見つからない所は注意！

見通しの悪い所

- ・ 高く長い壁が続く人の目が届かなくなっている所
- ・ 公園
(トイレ、植え込みや遊具で見通しが悪くなっている所)
- ・ 神社、境内
- ・ 駐車場、駐輪場
- ・ 工事現場や荒れた空き家、空き店舗
- ・ 放置自転車やゴミが散らかっている所
(落書きのある所、人の目が行き届いていない場所の証拠)
- ・ 街灯の少ない暗い道
- ・ 路上駐車が多い道
- ・ スーパーマーケット、ショッピングセンター、図書館など
- ・ 一見たくさんの方がいるようなトイレや非常階段
→ トイレを利用する時は友達と一緒にいく
- ・ マンション
(エレベーター、屋上、階段、踊り場、ゴミ捨て場、建物の影)

チャンスがあるから犯罪は起こる

スキがあるから犯罪が起こる。

だから、スキのない街（チェック機能があり、多くの目のある街）づくり。

- ・あいさつ→習慣づけることで風通しのよい街に。子どもの状態の変化も読み取れる。
- ・井戸端会議や飲み会の中で、周囲を見る、見守りの話をする。

親子防犯教室

防犯教室といっても、頻繁に実施しないと身につかない→家庭でも気軽に防犯教室を実施して。子どもの目線に立って、子どもとともに行動しながら、子どもに問いかけ、自分で考えさせる。最後に、「自分の身は自分で守る」ことを伝える。

子どもの心について

子どもの心の変化に注意してほしい。そして再認識してほしい。

- ・最初は「知らない人」→ 毎日見ていれば「知っている人」→ 子どもの心にスキ
→ 不審者に目をつけられる場合につながりかねない
- ・子どもの「なあなあ、聞いて」←忙しくても耳を傾ける。意外な情報が得られるかも？

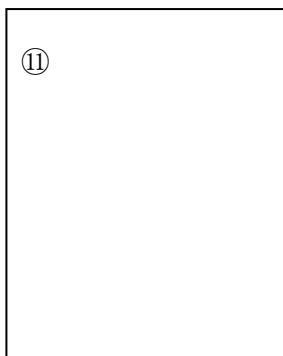
「はぐくみ」としてのPTCAの役目

「PTA」に「地域（コミュニティ）」が入ると「PTCA」になる。地域＝コーディネーターがパイプ役になって、町会やPTAに働きかけてほしい。

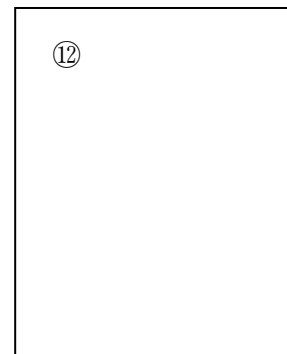
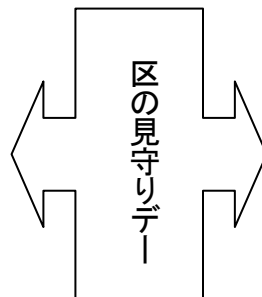
東淀川区の実践

東淀川区のある地域で、ある1人のPTAの発案で見守り活動が始まり、地域の後押し、中学生の参加とひろがっていき、現在東淀川区では、毎月7日が「見守るデー」として見守り活動が定着している。

1人の親の子どもへの強い思いが、人を、地域を動かし、区全体へひろがっていく。
その思いを大切に、活動してほしい。



小学校区情報誌より



小学校区情報誌より

